

## ウ イ ル ス 性 胃 腸 炎

埼玉県衛生研究所では、食中毒を含む集団胃腸炎事例の原因病原体究明として、県内在住の患者、施設の調理従事者等のウイルス検査を実施しています。当所で行った検査では、これまで高齢者福祉施設や保育園を中心に発生していたのに対し、今シーズンは、結婚式場や葬儀会場など、一般的な成人の集団にも多く発生していたこと、例年12月からノロウイルスによる集団胃腸炎発生数が増加するのに対し、10月から増加し始めたことが特徴です。

埼玉県衛生研究所では、2006年10月から2007年1月の4ヶ月間に53事例の集団発生（原因施設は県内・県外の両方を含みます）の検査を実施し、45事例からノロウイルスを検出しました。検出されたノロウイルスのうち42事例がGenogroup II、1事例がGenogroup I、2事例は両方のGenogroupでした。検出されたGenogroup IIのほとんどはgenotype4に属するウイルスで、昨シーズンまでに検出されたウイルスとgenotypeは同一ですが、ウイルスの最外層のたんぱく質のアミノ酸配列(P2ドメイン)を解析したところ違いがみられました。ヨーロッパで2005年12月に最初に報告された「2006b変異株」と呼ばれるウイルスとほとんど同じタイプのウイルスであると思われます。

ここ数年、genotype4ウイルス株は集団発生の主要原因ウイルスとなっており、検出されるウイルス株には年ごとに変異が認められます。しかし、県内の小児の感染性胃腸炎において、この様な変異株が出現しているのかは把握できていません。小児の胃腸炎検体の採取を積極的に実施して下さるようお願いいたします。

なお、胃腸炎を伴う脳炎・脳症患者の血清、髄液や痙攣を起こした胃腸炎患者の血清からノロウイルスの遺伝子が検出される事例が県外で数例報告されています。県内でも、ノロウイルスによる胃腸炎を併発している脳症患者の血清からノロウイルス遺伝子が検出された事例が1例ありました。